保健医療学部理学療法学科カリキュラムマップ

カリキュラムポリシー	ディプロマポリシー
本学科では、身体機能の専門職としての知識と技術を十分に発揮し、保健・医療・福祉の分野に貢献できる理学療法士を養成することを目的としている。理学療法を行うには、身体機能の障害だけでなく、それに伴う心理的問題をはじめとする多様で複雑な要因を考慮する必要がある。そのためには、豊かな人間性を培い、科学的思考を基に、率先して問題解決のできる人材を育成するカリキュラムを編成している。 理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則に定められた教育科目を基本として履修するだけでなく実践的で自ら考える内容のセミナー形式の科目を用意し、初年次より学外見学・実習を行い、学内での学修と専門職養成に不可欠な実践教育をバランスよく配置している。その中で、本学大学院健康科学研究科への接続科目やスポーツ理学療法領域を体系的に学修することができる科目と、臨床における専門的理学療法を学ぶことのできる臨床専門実習を設置している。卒業までに必修科目と選択科目を合わせた128単位以上を修得することで、理学療法士国家試験受験資格が得られる。 カリキュラムの詳細は理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則で提示されているものをもとにして基礎教育科目、専門教育科目で構成される。基礎教育科目は7つの科目群に分けられ、専門教育科目はさらに3つの専門基礎分野と6つの専門分野に分けられ、これら16の領域は個別に学生の到達度をもとに自己評価・点検を受けることとなっている。 各々の詳細は以下のとおりである。 基礎教育科目は、「基礎教養ゼミナール」「人間生活の質的向上に関する科目群」「社会参加の前提に関する科目群」「専門教育の基礎となる科目群」「コンピュータリテラシに関する科目群」「外国語科目群」「健康の維持向上・管理に関する科目群」の7つの科目群、専門基礎分野は「人体の構造と機能及び心身の発達」「疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進」「保健医療福祉とリハビリテーションの理念」の3つの領域で構成され、専門分野は「基礎理学療法学」「理学療法評価学」「理学療法治療学」「地域理学療法学」「臨床実習」「理学療法研究・演習」の6つの領域で構成される。 (基礎教育科目と専門教育科目の科目編成の詳細は別添資料を参照のこと) 学年ごとにカリキュラムの構成を通覧すると、 1年次では、幅広い教養を身につけながら、自然科学ならびに解剖学や生理学といった医学の基礎となる科目を学ぶ。同時に、学生自らが医療従事者の一員であることを自覚するための実践教育を展開する。 2年次では、解剖・生理学を応用した運動学を確実に身に付け、理学療法利用者の病態を理解するために必要な臨床医学を学修する。その上で、理学療法評価学の検査項目や測定手技を、講義および実習を通して習得する。 3年次の前半は、理学療法治療学や地域理学療法学の立場から臨床的問題点の解決過程を学び、チームワーク医療の重要性や予防医学への応用、さらに健康増進の社会的必要性について学修する。3年次後半には、学生一人一人が理学療法の臨床応用を擬似体験できるよう、教員の指導のもとで理学療法技術論をとおして理学療法の適用方法と技術を深める。同時に、1～3年次の講義や臨床実習で学んだ理学療法学の学問体系をもとに、理学療法学の専門分野を発展させるための研究方法を理学療法研究・演習の過程で習得する。 4年次では、豊橋市内をはじめとする各地の臨床実習関連施設において、臨床指導者のもとで理学療法対象者、個々の状態に合わせた理学療法の実践、即ち評価、診断、治療および効果判定を総合的に学修する。	1．医療専門職ならびにチーム医療の一員としてふさわしい倫理観と幅広い教養とコミュニケーション能力を身につけている。 2．専門領域ならびに関連した領域の課題を解決するために必要な情報を収集して適切に活用する能力や判断力を有している。 3．医療人として必要な基本的な知識を身につけている。 4．理学療法学の専門的な知識および技術を修得し、それらを実践する能力を有している。

		科目コード	科目名	授業科目の概要	到達目標	単位数			開講時期（●）								専攻の学習成果（◎＝学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目．○＝学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目．△＝学習成果を上げるために履修することが求められる科目）											
									1年		2年		3年		4年		医療専門職ならびにチーム医療の一員としてふさわしい倫理観と幅広い教養とコミュニケーション能力を身につけている。			専門領域ならびに関連した領域の課題を解決するために必要な情報を収集して適切に活用する能力や判断力を有している。			医療人として必要な基本的な知識を身につけている。			理学療法学の専門的な知識および技術を修得し、それらを実践する能力を有している。		
						必修	選択	自由	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	倫理観	幅広い教養	コミュニケーション能力	情報活用能力	問題解決能力	専門職間連携能力	リハビリテーション理念	人体構造・機能と発達	疾患と障害	理学療法専門知識	理学療法技術	臨床実践能力
基礎教養ゼミナール	基礎教養ゼミナール	9001	基礎ゼミナールⅠ	基礎ゼミナールⅠは1年生の春学期に開講し、大学における学びのコツ、ノートテイキングや情報整理など、大学における主体的学修方法の習得を目的に行う。授業は基本的に少人数単位のゼミナール形式で行うが、内容に応じその形を適宜変更する。	①ノート・テイキングやアカデミック・ライティング、テキスト精読とその要約などの基礎など大学でのスタディ・スキルズを修得する ②大学生活における時間管理と目標設定ができる	1			●								◎	◎	◎	○	○	○						
		9002	基礎ゼミナールⅡ	基礎ゼミナールⅡは1年生の秋学期に開講し、臨床実践能力を高める上で重要となるコミュニケーション力の向上（文書によるコミュニケーションを含む）を目的に行う。授業は基本的に少人数単位のゼミナール形式で行うが、内容に応じその形を適宜変更する。	①コミュニケーションの重要性を理解する ②コミュニケーション・スキルを向上させて、状況に応じた適切なコミュニケーションを使い分けることができる	1				●							◎	◎	◎	○	○	○						
		9003	基礎ゼミナールⅢ	基礎ゼミナールⅢでは、情報を複数の視点から論理的に分析し、判断するクリティカルシンキングと、自分の意見・主張を整理し、適切な根拠をもって相手にわかりやすく伝えるロジカルライティングを習得する。授業は基本的に少人数単位のゼミナール形式で行うが、内容に応じその形を適宜変更する。	①情報を複数の視点から論理的に分析し、判断できる ②自分の意見・主張を整理し、適切な根拠をもって相手にわかりやすく文章にて伝えることができる	1					●						◎	◎	◎	○	○	○						
		9004	基礎ゼミナールⅣ	基礎ゼミナールⅣでは、学術的な体裁と形式を持つレポートの書き方、効果的なプレゼンテーションとそのための工夫を習得することを目的とする。授業は基本的に少人数単位のゼミナール形式で行うが、内容に応じその形を適宜変更する。	①学術的な体裁と形式を持つレポートを作成できる ②効果的なプレゼンテーションができる	1						●					◎	◎	◎	○	○	○						
基礎分野	人間生活の質的向上に関する科目群	9011	心理学Ⅰ	心理学Ⅰでは、科学的にこころを探求する方法とその成果について、基礎的な内容を学ぶ。知覚、記憶、学習、動機づけ、パーソナリティといった一般的な心理学領域を概観しながら、まずは個体としてのこころについて、科学的にとらえる練習を行う。また、本講義は必修科目である「臨床心理学」を履修するための基盤を得ることを目的とする。	①人間のこころを構成するさまざまな機能（知覚、記憶、学習、動機づけ、言語、思考と創造性など）について概説できる ②人間のこころの働きに関する個人差や発達的な差異について、代表的な理論を説明できる		2		●								◎	◎	◎	○	○	○						
		9012	心理学Ⅱ	心理学Ⅱにおいては、主として、社会的認知、対人関係、集団と個人といった領域を扱う。具体的かつ現代的な問題についてもとりあげながら、科学的な視点からこころを探求する心理学の成果を紹介する。臨床の現場で、同僚やクライエントおよびその家族と接する際に配慮すべき事柄に関する知識を得ることを目的とする。	①対人認知、社会心理学で明らかになった代表的な現象を列挙できる ②対人認知、社会心理学の知見にもとづいて、日常的な問題あるいは臨床上の問題について、見直すことができる		2			●							◎	◎	◎	○	○	○						
		9014	国語表現法	施設などにおける業務の処理は、文書によって行われることが一般的になっている。ただ、こうした文書にはさまざまな決まりがあり、それを理解しておくことが求められている。国語表現法では、一般的なお礼状やレポートなどの作成法の他に、実社会で求められる文書作成能力を身につけることを目的とする。また、実社会で記される文書を正しく読解する能力を獲得することも合わせて行う。	①日本語の基礎を身につける ②文書作成に必要な知識を身につける ③目的に応じた業務連絡文書を記述できるようになる	2			●								◎	◎	◎	○	○	○						
		9015	文学論	優れた書物を読むことで得ることができるものは多い。文学論では日本の文学作品をテキストとして、文化の継承・論理的な構成力の育成・優れた文章を味わうことで得ることが可能になる日本語表現の獲得などを目指す。 作品を精読することで、日本とは、日本人とは、時代とは、社会とは、家族とはなど、現代に生きる日本人に投げかけられている問題に対する解決策を探す。	①小説に込められた作者の意図を読み取る ②小説は読者によって、読まれ方が変化することを認識する ③自身の考えを文章によって他者に説明できる		2			●							◎	◎	◎									
		9016	哲学	教員や他の学生との質疑応答や討論を通じ、哲学を追体験する。我々の身の回りにあるさまざまな事物について、既存の学問や常識にとらわれずに論理的に考える能力を身につけていくことを目的とする。第一に感想や自分の考えたことを他人に理解できるように自分の言葉で伝える能力の習得を、第二にテキストの著者や他人の言いたいことを代弁する能力の習得を目指す。あわせて読解・論述能力の養成も目的とする。	①哲学の背景にある時代状況や学問上の諸問題について理解する ②哲学者が展開した学説を理解する ③常識や既存の知識、自分だけの意見を対象化し、批判的に検討するまなざしを身につける		2			●							◎	◎	◎									
			現代芸術	衣食住とつながった表現、さらに衣食住を超えた表現など、さまざまな生活の中での芸術表現について解説する。美の歴史的推移を解説し、さまざまな表現形式を紹介することを通して生活の中での芸術的表現を見直す。	①いけ花などを通して、日本の伝統文化を理解する。 ②四季の草木に接して、豊かな心を養う。 ③暮らしの中の文化を身につける。 ④暮らしの中での芸術的表現を見直す。		2			●							◎	◎	◎									
		9020	ボランティア論	ボランティアは新しい時代を生きていくための行動様式の一つである。本講義では、福祉・環境保護・まちづくり・子育て・国際協力等さまざまなボランティア活動とそれと関連したNPO（非営利組織）の活動を扱う。ボランティアの意義と実情を学ぶことを目標に、講義だけではなく、実際にボランティア活動をしている現場のリーダーたちの話を聞いたりし、諸施設を訪問し、実際にボランティア活動を行う。これらを通じて、総合的に受講者のボランティア論の基礎を作り出すことを目的とする。	①わが国のボランティア活動の現状を理解する ②自らがボランティア活動に参加することができる ③やる気の態度・積極的な志向性をもつことができる ④人と人とのコミュニケーション技能・プレゼンテーションの表現能力を高めることができる		2		●								◎	◎	◎	○	○	◎	○					○

		科目コード	科目名	授業科目の概要	到達目標	単位数			開講時期（●）								専攻の学習成果（◎＝学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目．○＝学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目．△＝学習成果を上げるために履修することが求められる科目）											
									1年		2年		3年		4年		医療専門職ならびにチーム医療の一員としてふさわしい倫理観と幅広い教養とコミュニケーション能力を身につけている。			専門領域ならびに関連した領域の課題を解決するために必要な情報を収集して適切に活用する能力や判断力を有している。			医療人として必要な基本的な知識を身につけている。			理学療法学の専門的な知識および技術を修得し、それらを実践する能力を有している。		
						必修	選択	自由	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	倫理観	幅広い教養	コミュニケーション能力	情報活用能力	問題解決能力	専門職間連携能力	リハビリテーション理念	人体構造・機能と発達	疾患と障害	理学療法専門知識	理学療法技術	臨床実践能力
基礎分野	社会参加の前提に関する科目群	9026	社会学概論	働くことに焦点を合わせ、経営組織の構成員として、職場集団のなかで与えられた職務を遂行しながら、加齢とともに人が発達・成長・社会化・個性化していく過程について学ぶ。職業興味、職業選択、キャリア展望、組織社会化、職務満足、仕事の動機づけ、組織コミットメントなど、組織内キャリア発達に関する主な主題を取り上げ、共働き夫婦の仕事と家庭との調和をはじめ、職業生活に関る身近な問題について考えるための手がかりを示すことを目的とする。	①受講学生が、仕事や働くことを自身の問題として現実的に考えることができる ②受講学生が、仕事や働くことに関する現代社会の諸問題を考えることができる ③受講学生が、就職することは、社会の構成員としての義務であることを知る ④受講学生が、学卒後に働きながらどのような仕事経験をするかについて知る ⑤受講学生が、働くことによって、人がどのように成長できるかについて考えることができる ⑥受講学生が、仕事や働くことが、男女間でどのように違うかについて考えることができる		2		●								◎	◎	◎	○	○	○						
		9027	法学概論	物事を「事実」と「規範」、「目的」と「手段」というように分析していく「法律的思考」を身につけ、何事にも自分なりの判断ができるようになることを目標とする。法学の一般的な知識を学修できるよう、法理論、法解釈、裁判所制度、実体法（民法、刑法、商法、訴訟法等）について概説する。	①法学の基礎知識を身につける（ただし、用語・概念の暗記ではなく、法のことばと日常のことばとの違いに敏感になること） ②法学の基本的思考法を理解する（他の学問との思考法の違いをも理解すること） ③法学のおおよその分野の「土地勘」を得る		2		●								◎	◎	◎	○	○	○						
		9028	市民社会と政治	現在、われわれが生活している社会すなわち現代社会は大衆社会であり、脱工業化社会＝情報化社会であり、それはまた市民革命によって出現した市民社会の延長線上にある。複雑多岐にわたって変化している社会の実態を＜政治＞という視点で理解し、国際的な視野に立って日本の社会と政治について考察する。そして、一市民あるいは一人間として地域社会の政治、日本の政治さらに国際政治とどう関わっていくべきかを考える。	①よき市民、有権者としての自覚を持つ ②社会に対して関心を持つ③故郷に愛着を持つ		2		●								◎	◎	◎	○	○	○						
		9029	社会思想史	近代から現代における社会の変化に対し、人間がいかにそれを認識し、それに対しどのように対応していったかについて、日本や北東アジアを中心に解説し、現代の社会や文化を考察し理解を深めることを目標とする。＜近代化＞＝Modernization、国民国家nation-stateの形成という視点から欧米社会と日本を含めた東アジア社会の比較対照しながら解説をおこなう。	国際的な視野で日本および日本社会をとらえる視点を持つ		2		●								◎	◎	◎	○	○	○						
		9030	消費経済論	経済の実態構造の中で、生産と消費は二つの基本なモメントとして相互に制約し合う関係にある。しかしながら、生産を主体としたこれまでの経済学に対する批判とともに、また消費者という概念のもとで生み出された市民運動の発展のなかで、生産及び企業に消費という側面がどの様に対抗力を持つのかが今日問題となっている。この科目では、これらの点を中心に解説する。	貨幣や金融を重点に経済活動における消費者の主体的役割の変化を最終的に理解する		2		●								◎	◎	◎	○	○	○						
		9032	社会政策	社会政策は、社会の下部構造である経済的な諸活動に対して、その上部構造である国家や政治がどの様に影響を与えているのかを研究する学問であると考えられている。なかでも、労使間の調整は、社会権の確立とともに、社会政策の歴史的な最重要課題とされている。本講義では、こうした歴史と理論を前提にして、社会保障や高齢化社会の問題など社会政策の具体的な点にまで踏み込んで説明をおこなう。	労働政策と社会保障を理論的な柱として社会政策の現段階を総合的に把握できる		2		●								◎	◎	◎	○	○	○						
		9034	社会福祉学	社会福祉の意味やその歴史、老人福祉、地域福祉、介護保険、医療保険等に関連する地域の福祉基盤整備、社会資源の活用について講義する。また、我が国において、高齢者などの要介護者が置かれている社会状況などを解説し、社会福祉の諸制度の現状と課題、今後の地域福祉の発展の可能性について概説する。また、社会福祉と関連する医療分野、社会福祉の制度と諸サービス、社会福祉の課題と動向、介護保険と保健・医療・福祉の統合、ケアマネジメント等について講義する。	①対人サービス専門職として、社会福祉の意義・目的、社会福祉とその関連制度、その歩みについて理解したうえで活用できる ②専門職として、社会福祉対象者の利用者ニーズを把握できる ③社会福祉対象者に必要な社会福祉資源を選択し、アドバイスできる		2		●								◎	◎	◎	○	○	◎	○					
			地球の生態学	地球環境の成り立ちや地球科学の基礎的な知識について説明し、地球環境問題について、水、大気、生物等に関して具体的な例を挙げて解説する。科学技術の発展と人間の生活を自然環境に調和させることの大切さを理解させ、人類を含む生物の生存について考えさせる。単なる個々の知識の習得にとどまらず、自然環境の保全や自然保護の問題などに対する「科学的なものの見方・考え方」を培う。	①生態系の役割および生態系の破壊が与える影響について述べることができる ②地球環境問題群の全体像と相互作用について列挙できる ③主な地球環境問題について、その原因と影響について述べることができる		2			●							○	◎	○	○	○						
	専門教育の基盤となる科目群	9041	生物学	生物個体の基本単位である細胞および種の基本単位である個体においてこれらの現象がどのように行われ、相互にいかなる関係をもつかについて学修する。さらに、生物集団における環境に対する反応・調節・防御様式および種族維持について学ぶ。生命現象における２つの側面ー生命を支えている基本的な法則“共通性”と生命体の示す多様性ーについて学修する。	①人体の素材としての細胞の構造および細胞が生きていくための細胞小器官名と機能について説明することができる。 ②細胞幹細胞に関する遺伝子治療の基礎分野として核酸(DNAとRNA)および遺伝子情報としての転写、翻訳が説明できる。 ③さまざまな外部環境からの攻撃より身体をまもっている皮膚ならびに生体防御機構について学び、皮膚の構造と機能および非特異的防御機能、特異的防御機構(免疫)が説明できる。 ④免疫異常について説明できる。 ⑤体温とその調節機構が説明できる。	2			●								◎	◎	◎	○	○			○				
		9042	物理学	物理学と日常生活との関わりについて理解させるとともに、専門教科で必要とされる物理学のための基礎的な知識を修得することを目標とする。そのために、運動の法則を中心に古典力学を学び、基礎的な電気回路と電磁波に関する事柄を中心として電磁気学を学修する。	①力の種類とその性質を説明できる ②運動の法則を説明できる ③運動量保存の法則と力学的エネルギー保存の法則を説明できる ④物質の状態について説明できる ⑤熱の性質を説明できる ⑥電気と電磁波の性質を説明できる		2			●							◎	◎	◎	○	○			○				

		科目コード	科目名	授業科目の概要	到達目標	単位数			開講時期（●）								専攻の学習成果（◎＝学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目．○＝学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目．△＝学習成果を上げるために履修することが求められる科目）											
									1年		2年		3年		4年		医療専門職ならびにチーム医療の一員としてふさわしい倫理観と幅広い教養とコミュニケーション能力を身につけている。			専門領域ならびに関連した領域の課題を解決するために必要な情報を収集して適切に活用する能力や判断力を有している。			医療人として必要な基本的な知識を身につけている。			理学療法学の専門的な知識および技術を修得し、それらを実践する能力を有している。		
						必修	選択	自由	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	倫理観	幅広い教養	コミュニケーション能力	情報活用能力	問題解決能力	専門職間連携能力	リハビリテーション理念	人体構造・機能と発達	疾患と障害	理学療法専門知識	理学療法技術	臨床実践能力
基礎分野	専門教育の基盤となる科目群	9045	生命倫理	医療技術の目覚しい発展により、延命、健康の維持・増進、出産といった希望が叶えられるようになった反面、解決しがたい社会的、倫理的な問題に人々は直面するようになった。これらに医療従事者がどう取り組むべきかを考察する。「生命倫理の諸問題を理解する」「医療倫理の諸問題を論理的に考察する」「医療現場の問題を具体的に現実的に想像し、Bestの医療ではなくBetterの医療として患者にどう関るのかを包括的に考える」ことを目標とする。	①生命倫理の諸問題を理解し、自分で調べ、考え続けることができる ②生命倫理の諸問題がさまざまな人の価値観を左右することを知ることができる ③生命倫理の諸問題に関して、自分なりの意見を持ち、それを他人に分かるように表現できる ④自分と他人の意見を批判的に検討し、それを肯定的に生かせることができる ⑤医療現場の問題を具体的で現実的に想像し、患者にどうかかわるのかを、包括的に考えることができる	1				●							◎	◎	◎		○	○	○	○				
		9022	救命救急学	理学療法施行中に遭遇し得る患者の様々な救急事象を学ぶ。外傷や病態が急変し救急と判断する必要がある患者の病態と症状を学修し、救急と判断する評価方法や対処法についての知識を習得する。あわせて、一次救命法を学び、その技法を修得する。	①受傷あるいは病態の急変により救急と判断される患者の病態と症状を理解する ②受傷あるいは病態の急変により救急と判断される患者の評価方法を理解する ③受傷あるいは病態の急変により救急と判断される患者の対処法について理解する ④一次救命法を理解し実践できる		2			●							◎	◎	◎		○	◎	○	◎	◎			
	コンピュータリテラシに関する科目群	9051	情報リテラシⅠ	高度情報化社会において、情報を処理し活用する基礎的能力を高めるため、情報科学の概念と情報処理に必要なコンピュータの基礎知識・活用技術について学習する。主に、文書作成ソフト・表計算ソフトなどの基本的な操作を実習し、社会人として必要とされる基本的なコンピュータ操作の習得と、タイピング能力の向上を目指す。	①情報モラルを踏まえた適切な判断ができる ②インターネットを利用してWEB情報の収集ができる ③文書作成ソフトの基本操作が行える ④表計算ソフトの基本操作が行える	1			●								◎	○	○	◎	◎							
		9052	情報リテラシⅡ	「情報リテラシⅠ」で培った基本的な情報処理・活用能力をさらに高める。主に、文書作成、表計算、プレゼンテーションなどのアプリケーションソフトの操作を実習し、情報収集からレポート作成、基本的なデータ処理、初歩的な統計分析の手法などを習得する。	①効果的な文章作成ができる ②効果的なプレゼンテーションができる ③データの特徴を数量的に示すことができる ④データの特徴を視覚的に示すことができる ⑤初歩的な統計分析が行える		1			●							○	○	◎	◎	◎	○						
			情報リテラシⅢ	「各種の統計データをどのように読み取るか」「そこから何が説明されるか」などデータ分析の基本について、表計算ソフトを用いて学習する。データの収集・分析・報告を中心に実習・実践し、データ集計、データ分析、グラフ化、仮説検定、統計的な分析などについて習得する。	①複雑なデータの特徴を可視化することができる ②表計算ソフトを用いて推定と検定を行うことができる ③表計算ソフトを用いて回帰分析を行うことができる		1				●						○	○	○	◎	◎	○						
			情報倫理	インターネットをとりまく情報技術の進展と急速な普及にともない、さまざまな問題が生じている。情報技術の役割と影響力を理解して、情報倫理の必要性や、情報に対する責任、情報社会における望ましい態度について考える。特に、情報を利用する立場および発信する立場に立ったとき、どう行動すべきかについて検討する。	①情報を扱うときに生じる責任について説明することができる ②情報のやりとりに必要なルールや心構えを知り、説明することができる ③情報に関連した法規や情報モラルについて学び、説明することができる	1						●					◎	◎	○	○	○							
	外国語科目群	9061	英語Ⅰ	大学生に必要な基礎英語（基礎文法、語法、語彙、表現）を、欧米で編集されたテキストとオーディオ補助教材を通して段階的に学習する。単にテキストの解説をしたり、演習問題に取り組ませて言葉を習得させるだけではなく、テキストに登場する様々な風俗習慣や民族性をもつ人々の言動を通して、言語と思想との関わりを理解し、母国語を含めた言語一般に対する興味や国際感覚を養う。	①英検2級程度の英語力を身につける ②テキストの内容を通して英米の習慣、思想を学ぶ ③言語の重要性を認識する	2			●								○	◎	◎	◎	○	○						
		9062	英語Ⅱ	「英語Ⅰ」で習得した知識を基盤にして、それらが実際のコミュニケーションでどのように使われるかを、「聞き、話し、読み、書くの四技能」をバランスよく発達させる教材を駆使して理解する。さらに高等学校までの学習では十分に身についていなかった英文法の法則、語法を定評のある欧米のテキストや海外からのメディアを活用して学修し、生涯学習として英語を自学自習する意欲と能力を修得する。	①実用的な英語の文法を習得する。 ②英語に対する興味を深める。 ③英語のコミュニケーション量力を高める。		2			●							○	◎	◎	◎	○	○						
		9066	英語コミュニケーションⅠ	英語のみを用いて授業を進める。英語コミュニケーションⅠでは、海外旅行に行って問題がない程度の英会話能力の習得を目標とし、簡単な挨拶等からはじめて、日常的な会話を習得する。必要に応じて、ビデオ等の教材を用い、様々な場面において英語で会話することに対する抵抗感をなくすことを目指す。	Students will learn English useful for confidently communicating with native speakers in a variety of situations.		2		●								○	◎	◎	◎	○	○						
		9067	英語コミュニケーションⅡ	英語のみを用いて授業を進める。英語コミュニケーションⅡでは、英語コミュニケーションⅠを履修した者を対象とし、通常の日常生活で用いる英会話を主に習得する。ビデオ教材を活用し、具体的な場面を想定して会話する。	Students will learn English useful for confidently communicating with native speakers in a variety of situations.		2		●								○	◎	◎	◎	○	○						
		9071	ドイツ語Ⅰ	ドイツ語の初歩的なレベルを習得することを目標とする。あわせてドイツという国を知り、ドイツ風な生き方、考え方についても理解する。自己紹介、買い物、道を尋ねるなどの具体的な場面を想定しての会話から基礎的なドイツ語の文法について学修する。	①ドイツ語らしい発音ができる ②ドイツ語の数字や簡単なあいさつができる ③ドイツ語で数字が言える ④自分のことや旅行で使える表現がドイツ語で言える ⑤ドイツ人のライフスタイルを知り、日本人としての教養を深める		2		●								○	◎	◎	◎	○	○						
		9072	ドイツ語Ⅱ	ドイツ語入門Ⅰで学習した知識を基礎として、日常的な会話や新聞が読める程度のドイツ語の習得することを目標とする。辞書を用い、文書を翻訳させることを通して、語彙を増やし、慣用句等を学修する。	①ドイツ語らしい発音ができる ②ドイツ語で数字や簡単な挨拶ができる ③場面に応じたドイツ語が理解できる ④会話に必要な文法の基礎事項を理解する ⑤ドイツの社会や文化などを知り、教養を深める		2			●							○	◎	◎	◎	○	○						
		9076	中国語Ⅰ	中国語の発音と発音記号である拼音（中国式ローマ字綴り）を基本的な会話の中で習得することを目標とする。また、中国に関する基礎的な知識もあわせて習得する。	中国語の発音とピンイン（中国式ローマ字綴り）を習得する		2		●								○	◎	◎	◎	○	○						
		9077	中国語Ⅱ	中国語入門Ⅰを既習内容として、より広範は語彙、文法事項について学び、実際に用いられる慣用表現について修得する。	教科書の表現を正確に大きな声で発話することができ、関連文法事項を理解する 中国語検定準4級～4級程度		2			●								○	◎	◎	◎	○	○						

		科目コード	科目名	授業科目の概要	到達目標	単位数			開講時期（●）								専攻の学習成果（◎＝学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目．○＝学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目．△＝学習成果を上げるために履修することが求められる科目）											
									1年		2年		3年		4年		医療専門職ならびにチーム医療の一員としてふさわしい倫理観と幅広い教養とコミュニケーション能力を身につけている。			専門領域ならびに関連した領域の課題を解決するために必要な情報を収集して適切に活用する能力や判断力を有している。			医療人として必要な基本的な知識を身につけている。			理学療法学の専門的な知識および技術を修得し、それらを実践する能力を有している。		
						必修	選択	自由	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	倫理観	幅広い教養	コミュニケーション能力	情報活用能力	問題解決能力	専門職間連携能力	リハビリテーション理念	人体構造・機能と発達	疾患と障害	理学療法専門知識	理学療法技術	臨床実践能力
基礎分野	外国語科目群		ポルトガル語	ポルトガル語の初歩的なレベルを習得することを目標とする。日常生活や仕事、旅行先で必要な会話を学ぶことで、ポルトガル語に関する基礎知識や文法、聞き取る力を修得する。	①ポルトガル語の基本的な発音と基礎的な文法事項を学び、基本的な挨拶表現と自己表現ができる ②特定の状況におけるポルトガル語が理解できる		2			●						○	◎	◎	◎	○	○						
		9086	医学英語	理学療法や看護の現場で必要な医療英語の表現法や語彙を習得する。さらに理学療法士が海外からの基本的な医療情報を得るのに必要な英語の能力を養うために、理解しやすい英語で書かれた実際の英米の医薬品や医療機器の解説書等を専門の辞書を参考にしながら読解する。	①理学療法の基礎英語力を高める ②身体や病気、傷害に関する英語の語彙を習得する ③英米の医療情報を読解する方法を学ぶ		2				●					○	◎	◎	◎	○	○	○					
	健康の維持向上・管理に関する科目群	9091	スポーツⅠ	スポーツすることの楽しさを実感することを目標とする。バスケットボール等を実習し、その技能を習得する。学生が生涯にわたって仲間と協力し、身近に楽しめるスポーツを見つける機会とすることを目指す。またスポーツの楽しさをより深く理解するために必要なルールやマナー、スポーツの技術を習得し、健康・体力の維持増進をはかる。	①各種スポーツの特性を理解し、基本技術とルールを習得して自主的に試合に取り組むことができる ②より高い技能と体力が身につくよう、その学習過程において取り組む態度や仲間との協調性と安全性等の社会的ルールを図ることができる		1		●								○	◎	◎	○	◎	◎						
		9092	スポーツⅡ	生涯を通じて気軽にスポーツに親しむことは健康の維持・増進につながり、生活習慣病を予防するためにも必要である。また、スポーツに取り組むことは私たちの住む社会で受けるストレスを解消させるのに効果的である。そこで、数種目のスポーツに取り組み、スポーツに対する関心、興味を持ち、スポーツする習慣の習得を目指す。	①各種スポーツの特性を理解し、基本技術とルールを習得して自主的に試合に取り組むことができる ②より高い技能と体力が身につくよう、その学習過程において取り組む態度や仲間との協調性と安全性等の社会的ルールを図ることができる		1			●						○	◎	◎	○	◎	◎						
		9093	健康科学Ⅰ	健康であるというのは、どのような状態を指すのか、また、私たちが健康な人生を送るにはどうしたらよいのかについて考えながら、「生きる」ことについて概論的に学ぶ。健康は「適度な運動」「バランスのとれた食生活」「正しい生活習慣」から導き出せるものであることを認識し、日常生活の中で生活習慣病の予防と健康の維持を目標に学修する。	①生活習慣病を中心とした健康問題に関する知識を身につける ②健康維持・増進のための疾病予防・対策法を身につける		1			●						○	◎	◎	○	◎	◎	○					
		9094	健康科学Ⅱ	健康科学Ⅰで習得した知識を基礎として、日常生活の中における危険因子の存在について学習する。また科学技術の発展に伴う環境の変化が、人間の身体に与える影響について学習し、近未来的な視点から健康を考える。「運動とメタボリックシンドローム」「運動と運動器疾患」「アスリートの科学」「社会と健康」「正しいダイエット・悪いダイエット」「遺伝子」「適応と健康」といったテーマから学修する。	①科学技術の発展に伴う健康問題に関する知識を身につける ②アスリートのトレーニング法等について科学的に見る目を養う ③将来、自らの職業を通じて他者の健康にかかわりを持つようになることを理解する		2		●							○	◎	◎	○	◎	◎	○					
専門基礎分野	人体の構造と機能及び心身の発達	9101	解剖学Ⅰ	解剖学は人体について、その形態・構造を通して理解しようとする学問であり、医療技術の修得を志すものにとっては不可欠の基礎的分野である。そこで、器官を構成する組織の形態・機能的特徴を理解し、人体を構成する各器官系の位置や形状および器官系を構成する要素を理解する。	①細胞の分裂に関わる構造物とその機能が理解できる ②染色体異常が理解できる ③骨のリモデリングが理解できる ④骨折における骨再生能力のメカニズムが理解できる ⑤体幹および四肢を構成する骨名とその特徴が理解できる ⑥関節における可動性連結と不動性連結の基本的構造が理解できる ⑦体幹および四肢の骨格筋名とその作用に関わる神経名が理解できる ⑧心臓の構造と体循環および肺循環に関わる動脈系が理解できる		2			●													◎	◎	◎	◎	○	○
		9102	解剖学Ⅱ	解剖学Ⅰに引き続いて、人体の構造について、各器官系毎に系統的に学習する。人体を構成する各器官系の位置や形状、器官系の構造の相互関係ならびに組織を構成する細胞、器官を構成する組織について、それぞれの形態・機能的特徴について、基本的要素の立体構築を把握することで、人体の構造に対する理解を深める。	①大動脈および大静脈名と存在部位と機能が理解できる ②呼吸器系を構成する器官名と機能が理解できる ③全身のリンパ系と機能が理解できる ④消化器系を構成する器官名と機能が理解できる ⑤泌尿生殖器系を構成する器官名と機能が理解できる ⑥内分泌系を構成する器官名および存在部位と機能が理解できる ⑦中枢神経系および末梢神経系を構成する器官名と作用が理解できる		2			●													◎	◎	◎	◎	○	○
		9105	生理学Ⅰ	生理学は生理学Ⅰと生理学Ⅱの2科目から構成され、2科目で生命現象の中において正常な生体機能がどのような機序で発現し、維持されているかを統合的に理解する。まず、１個1個の細胞の機能を学び、細胞の集合体である組織、器官そしてそれらが有機的に結合して発揮される生体機能へと理解を深める。	①一般的な細胞の生理機構、特に物質輸送と活動電位発生の仕組みを説明できる ②体液の概要と血液とリンパの成分、骨格筋の構造と収縮の仕組みを説明できる ③循環器系の概要ならびに心臓の構造と機能、血圧について説明できる		2			●													◎	◎	◎	◎	○	○
		9106	生理学Ⅱ	生理学Ⅰに引き続き、正常な生体機能とその調節の仕組みについて、体系的かつ統合的に理解する。生理学Ⅰで学修した内容に加えて、さらに生命現象を維持するために必要な正常な生理機能を学ぶと共に、生命現象としての恒常性（ホメオシタシス）の重要性についての理解を深める。そして、専門教育科目を学ぶための基礎知識を習得する。	①呼吸器系および尿排泄系の構造とその機能ならびに酸塩基平衡とその仕組みを説明できる ②神経系、消化器および感覚器の構造とその機能を説明できる ③体温調節機構を説明できる ④内分泌系の作用機序を説明できる		2			●													◎	◎	◎	◎	○	○
		9109	解剖学実習	人体を構成する各器官系の位置、器官系各要素の構造に加えて各要素の相互関係についての知識を修得する。また、体表から触知できる骨格や筋系などの各種指標を確認し、体表からの各種臓器・器官の位置や形態の把握に関する知識を得ることで、人体の構造についての理解を深める。	①解剖学見学実習を通して、単にヒトの構造物を確認することではなく「何でも視て、すべて吸収する」心構えで実習に望み、からだの構造を理解する ②特に骨格筋の形状、色、分布する血管および神経との位置関係を理解する ③骨の可動性連結の構造、補強靭帯の形状を理解する ④内臓の形状、色およびそれぞれの位置関係を理解する ⑤解剖学見学実習を通して、人権の尊重、ご遺族の気持ちを理解して、尊い気持ちを踏みにじる解剖見学であってはならないことを理解する		1			●									○	○	○		◎	◎	◎	◎	○	◎
		9111	生理学実習	生命現象の中において正常な生体機能がどのような機序で発現し、維持されているかを統合的に理解するための実習を行う。実習を通じて生体機能の発現およびその調節機構の基礎を理解することで、生理学Ⅰおよび生理学Ⅱにおける学習事項の理解を深める。	①筋電図、心電図、血圧、肺機能の検査・測定法とそのデータの生理学的意義を説明できる ②感覚機能の評価法とそのデータの生理学的意義を説明できる ③運動負荷試験法とそのデータの生理学的意義を説明できる ④実習事項をレポートにまとめることができる		1			●									○	○	○		◎	◎	◎	◎	○	◎

		科目コード	科目名	授業科目の概要	到達目標	単位数			開講時期（●）								専攻の学習成果（◎＝学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目．○＝学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目．△＝学習成果を上げるために履修することが求められる科目）											
									1年		2年		3年		4年		医療専門職ならびにチーム医療の一員としてふさわしい倫理観と幅広い教養とコミュニケーション能力を身につけている。			専門領域ならびに関連した領域の課題を解決するために必要な情報を収集して適切に活用する能力や判断力を有している。			医療人として必要な基本的な知識を身につけている。			理学療法学の専門的な知識および技術を修得し、それらを実践する能力を有している。		
						必修	選択	自由	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	倫理観	幅広い教養	コミュニケーション能力	情報活用能力	問題解決能力	専門職間連携能力	リハビリテーション理念	人体構造・機能と発達	疾患と障害	理学療法専門知識	理学療法技術	臨床実践能力
専門基礎分野	人体の構造と機能及び心身の発達		体表解剖学実習	体表面から非侵襲的に身体を観察・触察することにより、人体の構造についての概要（骨の形態、骨格筋の形態・走行、神経・血管の走行）を確認する手法は、理学療法を実施するために重要である。実習を通して、この手法を習得することで、人体の構造についての理解を深める。	①骨の形態を説明できる ②骨格筋の形態と走行を説明できる ③神経と血管の走行を説明できる ④骨、骨格筋、神経、血管を触知できる	1				●									○	○	○	◎	◎	◎	◎	○	◎
			スポーツ生理学	スポーツならびに運動負荷に伴う生体機能の応答と適応のメカニズムについて、生理学Ⅰ、生理学Ⅱおよび生理学実習の学修を通して得た知識を用いて理解する。そして、健康とスポーツの関係、スポーツ活動に伴う主なスポーツ外傷ならびに障害の発生機序、症状および兆候、予防法の概要について学修する。	①運動・スポーツによる生体応答の概要を説明できる ②運動・スポーツに対する生体機能適応の概要を説明できる ③健康の維持増進のための運動・スポーツとその意義を説明できる ④主なスポーツ障害や外傷とその予防法の概要を説明できる		2			●											◎	◎	◎	◎	○	○
		9115	臨床心理学	精神的な問題を抱える個人の状態を、心理学の知見にもとづいて科学的に理解し、適切な援助を行っていくために必要な知識を習得することを目標とする。精神分析学、行動主義、人間性心理学などの臨床心理学の主要なアプローチについて学んだあと、代表的な心理療法と心理アセスメントについて学ぶ。加えて、発達に関わる問題、障害受容などについても学修する。	①代表的な心理療法について、列挙し、概略を説明できる ②代表的な心理アセスメントについて、列挙し、概略を説明できる ③臨床心理学と関連の深い心理・社会的発達、学習の過程に関する代表的な理論について概略を説明できる	2						●									◎	◎	◎	○	○	○
		9117	人間発達学	出生から乳幼児期、学童期を経て成人に至る心身の成長と発達の過程、ならびにこの時期の環境はのちの発達過程にどのような影響を及ぼすかについて学ぶ。また乳幼児期に心身の発達発育障害を来たす主要な原因を取上げ、さらに心身障害児の理学療法を行う上でとくに必要となる基礎的事項を中心に学修する。	①各ライフステージにおける身体的変化・運動機能について説明できる ②感覚・知覚機能の発達について説明できる ③認知機能の発達について説明できる ④心理・社会的機能について説明できる ⑤小児の代表的な疾患を列挙できる	1						●									◎	◎	◎	◎	○	○
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進		内科系障害学	リハビリテーションを行う上で必要な内科系疾患を中心に疾患の概要について学ぶ。呼吸器疾患、循環器疾患、消化器疾患、肝・胆・膵疾患、糖代謝・脂質代謝異常、内分泌疾患、血液・造血器疾患、腎疾患、膠原病、感染性疾患など内科系疾患の成因、主要症状、治療の概要について学修する。また内科系疾患の診断に必須の血液生化学的検査、生理学的検査、画像診断の概要について学ぶ。	①チーム医療を実践するのに必要な内科的知識を広く身につける ②循環器疾患、糖尿病など頻度の高い疾患についてその病態や予後、注意すべき点を知る ③内科的問題を抱えた省令に遭遇したときに、その問題点に気づき解決する方法を身につける	1					●										○	◎	◎	◎	◎	○	○
			運動器系障害学Ⅰ	筋骨格系は身体運動に関して中心的役割を果たしており、様々な疾患や外傷により運動器系に障害が生じた場合は、整形外科的治療と連携したリハビリテーションが重要な治療手段となる。また、筋骨格系障害のリハビリテーションは、日常のリハビリテーション臨床において頻度の多い障害である。そこで、運動器の機能解剖、整形外科的診断法、整形外科的治療法の総論、運動器リハビリテーションの総論、などについて総論的に学修する。	①骨の発生、成長、骨折治癒機転、代謝について理解する ②整形外科診察法、画像評価法を知る ③各種の整形外科滝治療法を知り、その中でリハビリテーションの果たすべき役割を述べることができる	2					●										○	◎	◎	◎	◎	○	○
			運動器系障害学Ⅱ	運動器系障害学Ⅰの講義に続き、運動器系に障害を生じる主要な整形外科的疾患（脊椎・脊髄疾患、関節リウマチ、変形性関節症、四肢の外傷、他）や障害（スポーツ障害を含む）を取り上げ、その病態、検査・診断、整形外科的治療、およびリハビリテーションについて各論的に学修する。	①関節リウマチをはじめとした炎症性疾患の病態とその治療法を説明できる ②変形性関節症の病態と治療法を説明することができる ③脊椎の構造とそこに起きる疾患、外傷の病態について理解する ④骨折をはじめとする四肢外傷について正しい知識を持ち、リハビリテーションで気を付けるべき問題点をを列記できる	2					●										○	◎	◎	◎	◎	○	○
			神経系障害学Ⅰ	神経学的症候を理解する上で必須の解剖学的基礎事項を学び、ついで障害により神経症候が出現する機序、すなわち障害部位と神経症候の関係について学ぶ。また意識障害、失語症など高次脳機能障害、脳神経障害、運動麻痺、運動失調など神経疾患にとって頻度の高い主要な症候の出現機序と症候の持つ意義について学ぶ。とくにリハビリテーションと関連の深い上下肢の運動麻痺の性状については重点的に取上げて学修する。	①神経系の解剖学的基礎事項を学ぶ ②障害部位と神経症候の関係について学ぶ ③意識障害や高次脳機能障害などについて理解する ④脳神経障害、運動麻痺、失調など神経疾患にとって頻度の高い主要な症候の出現機序と症候の持つ意義について理解する ⑤錐体外路障害等についても学ぶ	2					●										○	○	◎	◎	◎	○	○
			神経系障害学Ⅱ	各種神経疾患の成因と主要症候について学ぶ。すなわち、脳出血、くも膜下出血、脳梗塞など脳血管疾患、髄膜炎、脳炎など感染性疾患、多発性硬化症など脱髄疾患、パーキンソン病など錐体外路系疾患、筋萎縮性側索硬化症など運動ニューロン疾患、進行性筋ジストロフィーなどの筋疾患、脊髄小脳変性症、末梢神経疾患、腫瘍性疾患などの成因、病態生理、主要症候、予後、ならびにリハビリテーションを実践する上で留意すべき点について疾患別に学修する。	各種疾患の成因、病態生理、主要症候、予後、ならびにリハビリテーションを実践する上で留意すべき点について疾患別に学修する ①脳血管障害　、感染性疾患 ②脱髄疾患、錐体外路系疾患 ③運動ﾆｭｰﾛﾝ疾患、筋疾患、脊髄小脳変性症 ④末梢神経疾患、腫瘍性疾患	2					●										○	○	◎	◎	◎	○	○
			老年学	加齢に伴い、運動機能の低下や生理的な変化、認知症や関節症などの慢性疾患を有する状態となる。また、転倒や尿失禁などの老年症候群と呼ばれる症状を呈しやすい。そこで、加齢に伴う身体機能の変化や医学的治療における問題点などを取り上げ、健康増進、介護予防やリハビリテーションを実践する上での留意点について学修する。	①加齢による形態変化と生理機能の変化を説明できる ②老年症候群の発生メカニズムと症状とを説明できる ③老年期の疾病の特徴を理解し、説明できる ④老年期の健康増進法と介護予防法、転倒予防法を説明できる	2					●										○	◎	◎	◎	◎	○	○
		9133	リハビリテーション医学	障害を治療対象とした医学として、リハビリテーション医学は発展してきた。リハビリテーション医学の概要、リハビリテーション医学に基づく診察・評価、障害の病態生理や治療などについて学修し、リハビリテーション医学の基本的理解を目指す。またその基本的理解に基づき、主要な疾患や障害に対するリハビリテーション医学的知識を修得する。	①リハビリテーション医学の概要を理解する ②リハビリテーション医学に基づく診察・評価の基礎を学習する ③主な障害の病態生理について理解する ④主な障害の治療について理解する ⑤主要な疾患に対するリハビリテーション医学的知識を学習する	2					●										○	◎	◎	◎	◎	○	○

		科目コード	科目名	授業科目の概要	到達目標	単位数			開講時期（●）								専攻の学習成果（◎＝学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目．○＝学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目．△＝学習成果を上げるために履修することが求められる科目）											
									1年		2年		3年		4年		医療専門職ならびにチーム医療の一員としてふさわしい倫理観と幅広い教養とコミュニケーション能力を身につけている。			専門領域ならびに関連した領域の課題を解決するために必要な情報を収集して適切に活用する能力や判断力を有している。			医療人として必要な基本的な知識を身につけている。			理学療法学の専門的な知識および技術を修得し、それらを実践する能力を有している。		
						必修	選択	自由	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	倫理観	幅広い教養	コミュニケーション能力	情報活用能力	問題解決能力	専門職間連携能力	リハビリテーション理念	人体構造・機能と発達	疾患と障害	理学療法専門知識	理学療法技術	臨床実践能力
専門基礎分野	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	9135	病理学	病理学は病因を明らかにし、疾病の成り立ちを追究する重要な学問であり、また基礎医学と臨床医学を結ぶ学問でもある。前半の総論では細胞や組織の傷害、壊死とその修復、炎症、感染症、循環障害、腫瘍、免疫、老化について講義を行う。後半の各論では循環器系、呼吸器系、消化器系、内分泌系、泌尿器系、神経系、造血器系、運動器系、皮膚・感覚器系などのそれぞれの分野における疾病について学修する。	①基礎医学としての病理学、臨床医学としての病理学の役割を説明できる ②前半の総論で講義する各疾患概念（腫瘍、炎症・感染症、免疫異常、循環障害、代謝障害、染色体・遺伝子異常、退行性病変・進行性病変）について、それぞれの疾患の病理学的特徴を説明できる ③後半の各論で講義する以下の各器官・臓器（消化管、肝・胆・膵、呼吸器、循環器、血液、中 枢神経、運動器、女性生殖器・乳腺、 内分泌、腎泌尿器・男性生殖器）における代表的疾患について、病因、病理学的特徴、身体機能への影響、予後などを説明できる	2						●										○	◎	◎	◎	◎	○	○
		9137	精神医学	精神疾患は適切な治療の継続により、その症状は相当程度安定化し、軽快または治療する病気である。理学療法対象者が統合失調症、気分障害、脳卒中後うつ病、アルコール/薬物依存症、認知症（痴呆）、せん妄、高次脳機能障害、睡眠障害など精神疾患に高い割合で罹患していること、精神疾患が理学療法アウトカムに大きな影響を及ぼしていることを、理学療法士は認識しなければならない。本講義は、精神疾患の理解を高め、適切な対応ができるようになること、医療従事者として精神医学の正しい知識の普及・啓発ができるようになることを学修目標とする。	①意識障害、知能障害、記憶障害、感情障害、行動（意欲）障害、自我意識障害、知覚障害、思考障害について種類とその概要を説明できる。 ②器質性精神障害（認知症、物質依存）について説明できる ③統合失調症について説明できる ④気分障害について説明できる ⑤不安、強迫障害、ストレス関連障害について説明できる ⑥摂食障害、睡眠障害について説明できる	2								●								○	◎	◎	◎	◎	○	○
	保健医療福祉とリハビリテーションの理念		医療学入門	健康の維持、増進や疾患の治療の全体像を概観して、疾病や障害、清潔･不潔、インフォームドコンセント、守秘義務、インシデント･アクシデントなどについて学ぶ。適時行う、ロールプレイを通して症例とのファーストコンタクト、傾聴、問診から、患者およびその家族の心理状態、生活環境の変化や問題点を理解する。併せて、保健、医療、福祉の各領域において活躍できる理学療法士としての基本的な心構え、接遇、マナーなどを学修する。	①日本における医療や福祉、健康増進の現状について理解する ②保健、医療、福祉における理学療法士の役割について理解する ③医療人としての態度接遇について理解する ④理学療法士として基本となるマナーについて理解する ⑤利用者に対して基本的な接遇が実践できる	2				●							◎		○			◎	◎	○	◎			◎
		9141	公衆衛生学	学習を通じて、現代社会の中で賢く健康的に生活していくために、どのようなことを考えなければならないかを体得する。公衆衛生学の歴史、日本における医療の発展から始めて、人口構成などの厚生指標、生活環境、労働環境、衛生行政にかかわる諸問題を学修する。また結核などの感染症、放射線障害、各種の公害、薬害など有名な具体例から、将来、さまざまな新しい事態に遭遇した際の対処法を、自分で判断できるよう学修する。	人口問題や、環境問題などの学習を通じて、公衆衛生、疫学の諸問題を考える上で必要な基礎知識を学習する		2		●								◎	◎	○			◎	◎	○	○			
		9143	リハビリテーション概論	リハビリテーションは歴史的変遷を経て今日の概念に至っている。現在のリハビリテーションは医療分野のみならず、保健・福祉などの分野まで拡大しており、リハビリテーション専門職として、「リハビリテーションの理念と全体的概要」を正しく理解することが重要である。リハビリテーションの歴史的変遷、基本的概念、障害評価法の基礎、リハビリテーション関連職種、チーム医療と他職種との連携、リハビリテーションの基本的進め方、地域保健と福祉など、リハビリテーションに関係する基本的概念を習得する。	①リハビリテーションの歴史的変遷と基本的概念について学習 ②障害評価法の基礎的理解 ③リハビリテーション関連職種やチーム医療、他職種との連携についての学習 ④リハビリテーションの基本的進め方などの学習 ⑤現在の医療体制や代表的な一部疾患の基礎的知識などの獲得	2			●								○	○	○			◎	◎	○	◎	○		○
			医療統計学Ⅰ	統計学はバラツキを伴う情報を客観的に分析し評価する学問である。その統計学には「情報の基本構造を明らかにする機能」(記述統計学分野)と「少数の情報から全体を推し量る機能」(推測統計学分野)がある。これら二大機能について理解するするとともに、身近なデータを用いて各種の統計処理を学修する。	①統計データを適切な表やグラフで表すことができる ②データ集団の特性を表す平均やメジアン等の代表値を求めることができる ③データのバラツキ度を表す標準偏差や四分位偏差等を求めることができる ④2変量データの関係を調べるための分割表や散布図の作成および相関係数等を求めることができる ⑤確率理論を用いて簡単な確率の計算を行うことができる ⑥統計上最も重要な連続分布の正規分布や正規分布表等について説明できる ⑦確率95%で母平均の信頼区間推定ができる	2				●										◎	◎	◎	○					○
			医療統計学Ⅱ	理学療法などリハビリテーションをはじめとする医療現場において、治療成績の評価とその解析は必須である。こうした治療成績の分析評価は客観的な指標が必要であり、それらを導き出すために統計学的な手法が有効な手段となっている。そこで、医療現場でのデータ収集方法や得られたデータの分析方法とその評価などについて、実践例を通して習得する。	①統計学的仮説検定の流れが説明できる ②パラメトリックとノンパラメトリック検定の違いを説明できる ③対応がある場合の2群間のデータに差があるかどうかの仮説検定を行うことができる ④対応がない場合の2群間のデータに差があるかどうかの仮説検定を行うことができる ⑤多群のデータ間で差があるかどうかの仮説検定を行うことができる ⑥分割表の検定を行うことができる ⑦パソコン統計処理ソフトウェアを利用して統計データの解析処理を行うことができる		2				●									◎	◎	◎	○					○
		9044	感染予防	感染の予防と管理について必要な基礎的知識として、まず病原微生物により感染が起こる機序とヒトの感染防御機構について学ぶ。特に感染の経路について知ることは、感染予防の面からみて重要である。また医療関連施設や福祉施設における感染予防対策についての基本として、感染者への接し方と対処法、感染原因物質により汚染が疑われる器具の取り扱い、医療用補助器具の消毒、リネン類の扱い、病室や居室の清掃の必要性などについて具体的に学ぶ。	①病原体の種類、感染経路、ヒトの免疫機構について理解する ②医療現場で用いられる滅菌法、消毒剤などを適切に選ぶことができる ③標準予防策を実践できる ④予防接種について知識を持つ ⑤感染予防法の概要を知る	1					●						◎					◎	○	◎	◎	○		◎
		9046	安全管理論	理学療法士の職域は拡大し、職場に応じた安全対策について理解していることが必要である。そこで医療機関に限らず、施設、地域などさまざまな場面での患者安全について学ぶ。また、安全文化を形成するための組織、施設、および実践活動への理解を深める。その上で危機状態の回避、有害事象への対応、システムの変革などの基本的方策を学修する。	①患者安全とは何かを理解する ②理学療法業務における事故防止について理解する ③医療機関での安全対策について理解する ④生活の場での安全対策について理解する ⑤組織としての安全対策について理解する	1								●			◎		◎	◎	◎	◎	○			○		◎

		科目コード	科目名	授業科目の概要	到達目標	単位数			開講時期（●）								専攻の学習成果（◎＝学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目．○＝学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目．△＝学習成果を上げるために履修することが求められる科目）											
									1年		2年		3年		4年		医療専門職ならびにチーム医療の一員としてふさわしい倫理観と幅広い教養とコミュニケーション能力を身につけている。			専門領域ならびに関連した領域の課題を解決するために必要な情報を収集して適切に活用する能力や判断力を有している。			医療人として必要な基本的な知識を身につけている。			理学療法学の専門的な知識および技術を修得し、それらを実践する能力を有している。		
						必修	選択	自由	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	倫理観	幅広い教養	コミュニケーション能力	情報活用能力	問題解決能力	専門職間連携能力	リハビリテーション理念	人体構造・機能と発達	疾患と障害	理学療法専門知識	理学療法技術	臨床実践能力
専門基礎分野	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	9021	地域援助活動論	誰もが住み慣れた地域で安心して生活していくために、2025年を目途に地域包括ケアシステムが構築される。医療的問題を抱えた多くの障害者・高齢者が医療・介護・福祉の支援を受けながら在宅生活を送ることになる。今後、医療職も地域での活動の場が広まることから、医療職が地域で活躍するための意味と具体的技術、ならびに地域福祉活動の組織・専門職についての理解をもとに、コミュニティ・ワーカーの基本的態度と資質を修得する。	地域活動を理学療法の対象として認識し、社会との関連で健康問題を理解する		2							●			◎		◎	◎	◎	◎	○			○		◎
		9023	福祉と住環境	年齢・能力・体格・障害の有無などによる区別がなく、誰もが使いやすい住環境について学ぶ。まず、社会福祉の考え方を知り、高齢者や障害者の心身機能、そして高齢者や障害者に関する諸関連施策とサービスについて学修する。さらに、住居の基礎的な知識について理解を深めるとともに、ユニバーサル・デザインの考え方に基づく住宅デザインのあり方や、住宅改修の手法について学修する。	①社会に出て専門分野で基礎知識を身につける ②２・３級住環境コーディネータの資格取得を目指す ③高齢者が少しでも長く自分の家で暮らせる、空間づくり目指す		2		●								◎		◎	◎	◎	◎	○			○		◎
専門分野	基礎理学療法学		基礎運動学	運動学の定義や理学療法との関わり、そして、身体運動における生体力学、運動に伴う筋・骨格系、神経系を中心とした構造と機能を総合的に学習し運動学の基礎を修得する。また、姿勢や歩行など人体の運動・動作における身体運動のメカニズムやその基本的な分析方法の基礎を学修する。	①理学療法学の基礎科学としての運動学の重要性を説明できる ②身体運動を力学的視点（ベクトル、テコの原理、力のモーメントなど）で説明できる ③骨関節、筋、神経系の基本構造と機能について説明できる ④姿勢制御の基本的な考え方と姿勢の安定性について運動力学的に説明できる ⑤歩行の運動学・運動力学的特徴を説明できる ⑥身体運動の基本的な分析法について説明できる	2				●														◎	◎	◎	◎	◎	◎
			関節運動学	基礎運動学の学習内容を基に、四肢・体幹の関節構造について理解を深め、各関節における運動メカニズムの原理と特徴について学習する。また、関節運動学の視点から身体の部位別に人体の正常な構造・機能と運動との関係を理解して、各関節の機能障害が身体運動に与える影響について学修する。	①骨運動学に基づく運動と、関節運動学に基づく関節包内運動を説明できる ②肩複合体、肘・前腕複合体、手関節、股関節、膝関節、足関節と脊柱（体軸骨格）における構造と機能について説明できる ③肩複合体、肘・前腕複合体、手関節、股関節、膝関節、足関節と脊柱（体軸骨格）における関節運動について説明できる ④肩複合体、肘・前腕複合体、手関節、股関節、膝関節、足関節と脊柱（体軸骨格）における関節運動と靭帯および筋の作用について説明できる	2					●													◎	◎	◎	◎	◎	◎
		9204	運動学実習	基礎運動学・関節運動学で学習した人体の構造と機能と運動の関係について、実習を通じて運動メカニズムの理解を深める。また、実習では観察によって人の基本的な動作を分析し、さらに各種計測機器を用いて身体の運動・動作を測定し分析する。分析結果は運動学的、運動力学的な視点を基に考察し、レポートを作成を通して学修する。	①観察による身体動作の初歩的な分析（運動学的・運動力学的）を行うことができる ②安静立位姿勢における重心の安定性と動的バランスとの関連性について説明できる ③基本的姿勢を観察し「体位」と「構え」で記載することができる。 ④様々な筋収縮形態と筋力の関節について説明できる ⑤歩行における時間距離因子や運動学的因子の正常パターンについて説明できる	1					●								○	○	○			◎	◎	◎	◎	◎	◎
		9208	理学療法学概論	理学療法とは何か、理学療法士とはどのような専門性を持った職種なのか理解を深め、理学療法がどのような学問体系から成り立っているのか学習して、関連する専門科目を学ぶための導入部分を概説する。理学療法を必要とする対象者の全体像を理解し、対象者に必要な治療・介入のための基礎的方法を理解する。	①理学療法(PT)学とはどのような学問であるのか、PT士の仕事を説明できる ②PT学を構成する学問体系を解説し、それぞれの学習方法を説明できる ③大学4年間の流れ(実習や行事の時期)を把握し、学年ごとの重要科目を挙げることができる ④コミニュニケーション力を高めるためテキストを読み進め、能力を向上できる ⑤PTに求められる資質と態度を学び、身につける事ができる	2			●														○	◎	◎	◎	◎	◎	◎
			基礎理学療法実習	理学療法の対象となる、虚弱高齢者、片麻痺、下肢切断などを体験装具を装着して疑似体験し、障害が日常生活にどのような影響を及ぼすかを理解する。また、車いすによる屋内、屋外での走行や松葉杖での歩行を体験し、バリヤフリーなどの環境について考え、車いすや歩行、起居動作、食事動作、更衣動作などで安心感の得られる介助技術を修得する。	①理学療法に関連する医学用語や医療用語を正しく使うことができる ②授業で用いる医学用語や医療用語を説明できる ③各疑似体験を通して、障害が動作や日常生活に及ぼす影響を説明できる ④車いすや起居動作などの介助体験を通して、安全性を考慮した対象者への接し方や気遣いを説明・実施できる ⑤理学療法士の仕事や役割などを説明できる	1			●										○	○	○			◎	◎	◎	◎	◎	◎
			運動機能解析学	変形性関節症や、骨折など、運動器系の障がいにより関節の可動域制限や筋力低下が生じれば、歩行能力は低下し、日常の生活が大きく制限されることになる。また、スポーツ選手ではパフォーマンスの低下を生じることで、競技への参加が困難となる。そこで、そのような疾患や高齢者、スポーツ選手などに対し、効果的な理学療法を実施するため「動作解析に基づく障がい予防システムの構築」について学修する。	①人の動作に与える疾患の影響を考える ②障がいにより生じる運動機能制限を理解する ③運動器の構造と疾患による病態を理解する ④動作を解析する手法を理解する ⑤動作解析結果を分析し、問題点を抽出する手法を理解する		1							●						○	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎
			生体機能学	生体機能は、生体内外からの刺激に応じて変化し、場合により適応を示す。その適応は、負荷される刺激を受容し、遺伝子発現を介して引き起こされる。また、負荷される刺激条件により機能の亢進あるいは機能低下がもたらされる。こうした適応が、疾病やトレーニング効果発現に関わる。そこで、生体が刺激を受容して、適応を示す機序の概要を理解する。	①様々な刺激に対する生体応答の概要を説明できる ②様々な刺激に対する生体機能適応の概要を説明できる ③健康の維持増進における様々な刺激の活用法について説明できる ④廃用性症候群と生体への刺激の関係について説明できる		1							●						○	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎
			地域健康支援学	地域障がい者、特に社会福祉のニーズの高い障がい児や要介護高齢者に焦点をあて、尊厳性が確保されたなかで地域において自立した生活が実現されよう、医療、保健、住まい、日常的サポートなど生活支援にかかわる領域や場面と関連させながら実際的介入方法を学修する。	①地域障がい児・者の健康問題を説明できる ②地域の健康政策と支援内容を説明できる ③関連職種の介入方法を理解し、連携・協働を行うことの意味と方法とを説明できる ④地域支援の結果をどのように評定、査定するかを説明できる		1							●						○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	理学療法評価学		理学療法評価学	理学療法における評価の目的、対象、方法、記録、解釈までの一連の流れを学ぶ。そのために、問診、観察から基本的な形態計測、関節可動域、筋力の評価を修得する。また、評価に必要な情報の収集、評価結果の記録方法、問題点の抽出から、理学療法プログラムまでを結びつける手法を理解する。	①理学療法における評価の意義・目的を挙げることができる ②形態測定の測定方法を挙げることができる ③関節可動域測定表示ならびに測定法の各項目について基本軸、移動軸、参考可動域を挙げることができる ④感覚検査、反射検査の意義、目的を挙げることができる ⑤ADL、QOLの意義、目的を挙げることができる	2					●													◎	◎	◎	◎	◎	◎

		科目コード	科目名	授業科目の概要	到達目標	単位数			開講時期（●）								専攻の学習成果（◎＝学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目．○＝学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目．△＝学習成果を上げるために履修することが求められる科目）											
									1年		2年		3年		4年		医療専門職ならびにチーム医療の一員としてふさわしい倫理観と幅広い教養とコミュニケーション能力を身につけている。			専門領域ならびに関連した領域の課題を解決するために必要な情報を収集して適切に活用する能力や判断力を有している。			医療人として必要な基本的な知識を身につけている。			理学療法学の専門的な知識および技術を修得し、それらを実践する能力を有している。		
						必修	選択	自由	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	倫理観	幅広い教養	コミュニケーション能力	情報活用能力	問題解決能力	専門職間連携能力	リハビリテーション理念	人体構造・機能と発達	疾患と障害	理学療法専門知識	理学療法技術	臨床実践能力
専門分野	理学療法評価学		理学療法評価学実習	理学療法評価学で学習した基本的な評価技術について実習を行い、その技術を高めることを目的とする。問診、観察から基本的な形態計測、関節可動域、筋力の評価までを実際に行うことで、基本的な運動機能を理解するために必要な技術を修得する。	①全体像把握のための問診ができる ②四肢の形態計測ができる ③関節可動域測定表示ならびに測定法に基づき測定ができる④徒手筋力検査法（MMT）による測定ができる	1					●							○	○	○		◎	◎	◎	◎	◎	◎
			神経理学療法評価学	神経理学療法領域の評価を学習し、評価の目的と具体的方法を理解する。脳血管障害後片麻痺によって生じる意識、運動、感覚、高次脳機能の障害や、パーキンソン病、運動失調症、脊髄損傷、パーキンソン病、変性疾患など疾患別に機能障害、日常生活動作を含んだ能力障害の評価方法を学ぶ。	①脳卒中片麻痺患者の臨床像について国際生活機能分類（ICF)による生活機能と障害モデル例を作成することができる ②脳血管障害後片麻痺障害の意識、運動、感覚、高次脳機能の各障害についての代表的な評価法の概要、及び包括的評価法を挙げることができる ③FIMとSIASについて評価項目の理解と採点方法がわかる ④パーキンソン病、運動失調症、脊髄損傷など疾患別に機能障害、日常生活動作を含んだ能力障害の評価方法を挙げることができる	1						●										◎	◎	◎	◎	◎	◎
			神経理学療法評価学実習	反射反応、意識、高次脳機能、ADL、動作分析など神経理学療法領域で共通して用いられるの検査手技を実習し、障害像を把握するための具体的評価方法を体得する。併せて、疾患ごとに行われる個別の検査、評価方法を身につけ障害の重症度と問題点を把握するための方法を学修する。	①腱反射、感覚、意識、高次脳機能、脳神経の検査測定ができる ②FIMとSIASについて評価の実施と評定ができる ③ブルンストローム評価の実施と評定ができる④失調症状の評価の実施ができる	1						●							○	○	○		◎	◎	◎	◎	◎	◎
			運動器理学療法評価学	運動器理学療法は骨、関節および骨格筋などの運動器疾患を対象に実施される。そこで、各運動器疾患における病態の特徴と評価方法について学ぶと共に、各病態に対する理学療法の理解を深める。	①運動器の構造を説明できる ②運動器の機能を説明できる ③運動器疾患における病態の特徴を説明できる ④運動器疾患における病態の評価方法を説明できる	1						●										◎	◎	◎	◎	◎	◎
			運動器理学療法評価学実習	運動器理学療法は骨、関節および骨格筋などの運動器疾患を対象に実施される。そのため、運動器疾患を理解し、適切に評価することが重要である。そこで、運動器疾患における病態の特徴と評価方法について実習を通して理解を深める。	①運動器疾患における病態の特徴を説明できる ②運動器疾患における病態の評価方法を説明できる ③関節機能を評価できる ④骨格筋機能を評価できる ⑤神経機能を評価できる	1						●							○	○	○		◎	◎	◎	◎	◎	◎
			内科系理学療法評価学	内部（呼吸器系、循環器系、代謝系）障害の病態を適切に理解し上で、各病態に起因する身体運動障害の要因を明らかにするための検査・測定法と理学療法評価方法を学修する。また、内部障害により生じる身体運動機能への影響についての基礎知識を修得する。	①フィジカルサインを正確にとらえることができる ②運動中のフィジカルサインを正確に理解することができる ③運動負荷方法により、フィジカルサインの反応が異なることを理解できる ④運動負荷強度と酸素摂取量、心拍数の関連性を理解できる ⑤無酸素性代謝閾値について理解できる ⑥肺機能検査及び経皮的酸素飽和度を理解できる	1							●										◎	◎	◎	◎	◎	◎
			内科系理学療法評価学実習	内部（呼吸器系、循環器系、代謝系）障害の各病態に起因する身体運動障害を正確に評価し各病態を把握するために必要な検査、測定および評価法を実習を通して学修する。また、呼吸機能、循環機能、代謝機能検査の目的や方法を習得し、得られた情報を解析し、内部障害症例に対して適切な検査項目を選択する能力を修得する。	①フィジカルサインを正確にとらえて、正しく計測することができる ②運動中のフィジカルサインを正確に計測することができる ③運動負荷方法により、フィジカルサインの反応が異なることを理解できる ④運動負荷強度と酸素摂取量、心拍数の関連性を理解し、計測できる	1							●							○	○	○		◎	◎	◎	◎	◎	◎
			動作分析学	各疾患が示す正常動作からの逸脱(障害像)をどのように把握するのか、日常生活における各動作を、観察・解析・分析して、必要とされる支援・介入の方法を導き出すための手法を学ぶ。そのため、各疾患における特徴的な動作パターンを理解し、動作分析結果に基づく臨床推論過程を学修する。	①正常動作を理解する ②正常動作からの逸脱を理解する ③動作観察の手法を理解する ④動作の観察結果を分析する手法を理解する ⑤分析結果から理学療法介入手段を導き出す手順を理解する	1								●							○	○		◎	◎	◎	◎	◎	◎
	理学療法治療学		理学療法基礎治療学Ⅰ	理学療法の主たる治療手段には運動療法と物理療法がある。そして、運動療法と物理療法が身体に与える影響について正しく理解することが重要である。そこで、運動療法と物理療法の定義、種類や生体反応などの総論について学修する。	①運動療法の定義、目的、対象、種類、効果などを説明できる ②運動による各種生体反応（筋骨格系、神経系、呼吸器系、循環器系、代謝系）について説明できる ③物理療法の定義、目的、対象、種類、効果などを説明できる ④物理的エネルギーによる生体反応について説明できる	1				●													◎	◎	◎	◎	◎	◎
			理学療法基礎治療学Ⅱ	日常生活活動の概念、範囲、意義を学修する。特に、国際生活機能分類（ICF）との関係の中での日常生活の評価や日常生活の質を改善することの意味を理解する。また、日常生活を支援するための機器や補装具について、生活の中でどのように活用されるかについて、一般的な義肢装具、車椅子、生活補助具の種類、構造、適応を学修する。	①日常生活を構成する諸活動を整理して、ICFでの位置づけを説明できる ②日常生活活動の評価方法(FIMとBI)を学習し、実際に評価できる ③疾患による障害像の相違を理解し、障害像に応じた教科書的ADL援助方法を説明できる ④自助具、車椅子、義肢装具を導入することで可能となる生活活動を理解し、教科書的援助方法を説明できる⑤家屋・環境調整による介入方法を理解し、教科書的援助方法を提示できる⑥自助具、杖、車椅子、義肢装具を正しく使うことができる	1				●							○					○	◎	◎	◎	◎	◎	◎
			理学療法基礎治療学実習Ⅰ	理学療法の主たる治療手段である運動療法と物理療法が身体に与える影響について正しく理解することが重要である。そこで、運動療法と物理療法の各手法や生体反応について理解し、その実施方法を学修する。そして、運動療法と物理療法による生体反応の理解を深める。	①基本的な運動療法手法を説明できる ②基本的な運動療法手法を実施できる ③物理療法機器を用いた治療方法を説明できる ④物理療法機器を用いた治療方法を実施できる	1					●							○	○	○		◎	◎	◎	◎	◎	◎
			理学療法基礎治療学実習Ⅱ	障がいにより日常生活活動がどのように変化するかを測定するための方法を学修する。障がいの種類や程度により必要となる援助の具体的方法の共通項目について体験学習する。また、補装具については、装着･体験を通して、その機能や義肢装具装着者の日常生活での問題点について理解を深める。	①日常生活を構成する諸活動を整理し、評価することができる ②疾患や年齢により変化する日常生活活動の制限について理解する ③疾患や年齢による日常生活活動の制限を測定できる ③起居移動動作について教科書的な介助ができる ④自助具、杖、車いす等代表的な補装具の種類と適応について理解する	1					●						○		○	○	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		9227	理学療法技術論	理学療法を行うためには刺激や運動に対する生体の反応を理解する必要がある。そのため理学療法技術の理論的背景にある生理学的および解剖学的な裏づけを、基礎的な部分に焦点を当て学修する。また、大腿骨頸部骨折や脳卒中片麻痺などの代表的疾患の症例検討を通して、評価から理学療法介入までの手順とその内容をどのように記録するかについて学修する。	①筋力増強の方法を説明できる ②関節可動域改善の方法を説明できる ③筋緊張異常に対する理学療法の説明ができる ④疼痛に対する理学療法の説明ができる	2								●			○					○	◎	◎	◎	◎	◎	◎

		科目コード	科目名	授業科目の概要	到達目標	単位数			開講時期（●）								専攻の学習成果（◎＝学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目．○＝学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目．△＝学習成果を上げるために履修することが求められる科目）											
									1年		2年		3年		4年		医療専門職ならびにチーム医療の一員としてふさわしい倫理観と幅広い教養とコミュニケーション能力を身につけている。			専門領域ならびに関連した領域の課題を解決するために必要な情報を収集して適切に活用する能力や判断力を有している。			医療人として必要な基本的な知識を身につけている。			理学療法学の専門的な知識および技術を修得し、それらを実践する能力を有している。		
						必修	選択	自由	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	倫理観	幅広い教養	コミュニケーション能力	情報活用能力	問題解決能力	専門職間連携能力	リハビリテーション理念	人体構造・機能と発達	疾患と障害	理学療法専門知識	理学療法技術	臨床実践能力
専門分野	理学療法治療学	9229	理学療法技術論実習	理学療法技術論で学んだ各種の理学療法技術を適切に実施できるように実習形式で学修する。特に理学療法士に大切な人体に接するタッチの感覚、各種の刺激の入力の方法、筋力増強、関節可動域訓練などの基本的技術やそれらを実践するための基礎的能力を獲得する。	①各疾患に対する理学療法評価が選択できる ②典型的な筋骨格系疾患の理学療法が説明できる ③典型的な中枢神経疾患の理学療法が説明できる ④各疾患に対し適切な目標を設定できる ⑤各疾患に対応した適切な理学療法プログラムが作成できる	1							●			○		○	○	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎
			神経理学療法学	中枢神経系疾患に対する理学療法の基本的知識を概要について、評価から治療までの流れについて理解する。特に脳血管障害、パーキンソン病、運動失調などの各疾患に対する基本的な理学療法を学修する。障害を持ちながらの日常生活での指導管理に関する知識を深めるとともに、一方で障害予防としての生活指導を見据えた理学療法の展開ができるよう学修する。	①中枢神経系疾患の障害像を理解し、説明することができる ②各疾患の障害像にしたがって評価項目をあげることができる ③評価結果にもとづいて教科書に例示してある治療方法を選択できる ④障害像に見合った教科書的ADL介入方法を例示できる	2							●			○					○	◎	◎	◎	◎	◎	◎
			神経理学療法学実習	中枢神経系疾患の理学療法の基本的知識技術について、評価、検査・測定、問題点の抽出、目標の設定、プログラム立案などについて実習を通して学修する。また、様々な中枢神経系疾患に対する運動療法介入について実技の習得を目指すと共に、代表的疾患を症例として検討を深め、臨床能力の獲得を目指す。	①中枢神経系疾患の障害像を身体を使って表現し、説明できる ②各疾患の障害像にしたがって抽出した評価を実施することができる ③選択した治療方法を実施できる ④障害像に見合った教科書的ADL介入方法を展示、例示できる	1							●			○		○	○	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎
			運動器理学療法学	運動器理学療法学では、整形外科疾患等に起因する骨・関節機能障害に対する理学療法を修得する。そのために、関節の機能解剖学、病態運動学を学び、各種疾患の障害に対する知識を深め、状態に応じた評価、治療、リスク管理の実際を学ぶ。また、情報収集、画像診断、電気診断のポイントを理解し、各種疾患に対し最善の理学療法を行えるよう、各種運動療法技術や義肢装具、物理療法の効果と疾患への適応を学修する。	①各関節の機能解剖を説明できる ②各疾患の病態を説明できる ③各疾患に対する評価と、結果の解釈について説明ができる ④評価結果から障害構造の把握を行い、適切な目標設定を作成できる ⑤プログラムの立案について説明できる	2							●			○					○	◎	◎	◎	◎	◎	◎
			運動器理学療法学実習	運動器理学療法学実習では、整形外科疾患等に起因する骨・関節機能障害に対する理学療法技術を、実習を通して修得する。そのために、関節可動域改善のための関節包内運動やストレッチ、疼痛抑制や筋力・持久力増強のための理学療法技術を実習する。また、義肢装具や物理療法効果の検証を行い、筋骨格系疾患に対する理学療法プランを学修する。	①筋、骨、関節の触診を適切に行うことができる ②義肢装具の適応について説明できる ③運動器症状を改善するための物理療法を実施できる ④運動器症状を改善するための運動療法を実施できる ⑤情報収集から評価及び理学療法の実施までを記録できる	1							●			○		○	○	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎
			内科系理学療法学	内科領域の疾患による病態像や障害像を理解した上で理学療法の臨床的意義と実際の展開方法を学修する。講義は、循環器疾患、呼吸器疾患、代謝系疾患、腎疾患のほか悪性新生物の内科系治療により起因する身体運動障害を学び各病態のリスク管理や理学療法を学修する。	①糖尿病および肥満症の病態を理解、把握した上で理学療法を選択できる ②糖尿病の合併症を理解し、安全に理学療法を実施するための注意点を理解できる ③急性および慢性閉塞性呼吸器疾患の病態を理解、把握した上で理学療法を選択できる ④急性および慢性閉塞性呼吸器疾患の病期に応じた理学療法を選択できる ⑤急性および慢性閉塞性呼吸器疾患の合併症を理解し、安全に理学療法を実施するための注意点を理解できる ⑥虚血性心疾患および慢性心不全の病態を理解、把握した上で理学療法を選択できる ⑦虚血性心疾患および慢性心不全の病期に応じた理学療法を選択できる ⑧虚血性心疾患および慢性心不全の合併症のを理解し、安全に理学療法を実施するための注意点を理解できる	2							●			○					○	◎	◎	◎	◎	◎	◎
			内科系理学療法学実習	内科領域の疾患により起因する病態像や身体運動障害像を理解するため、内科系疾患による障害の理学療法の展開方法を実習を通して理解する。実際の運動時生体反応をモニタリング実習して身体運動時の生体反応とリスク管理の重要性を確認する。呼吸器疾患、循環器疾患、代謝系疾患、腎疾患および悪性新生物の内科系治療患者などに対する理学療法を体験実習することで、生体反応と各病態のリスク管理方法を学修する。	①糖尿病および肥満症の病態を理解、把握した上で理学療法を実施できる ②糖尿病の合併症を理解し、安全に理学療法を実施することができる ③急性および慢性閉塞性呼吸器疾患の病態を理解、把握した上で理学療法を実施できる ④急性および慢性閉塞性呼吸器疾患の病期に応じた理学療法を実施できる ⑤急性および慢性閉塞性呼吸器疾患の合併症を理解し、安全に理学療法を実施できる ⑥虚血性心疾患および慢性心不全の病態を理解、把握した上で理学療法を実施できる ⑦虚血性心疾患および慢性心不全の病期に応じた理学療法を実施できる ⑧虚血性心疾患および慢性心不全の合併症のを理解し、安全に理学療法を実施できる	1							●			○		○	○	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		9251	スポーツ理学療法学	スポーツ医学に基づいて、外傷・障害発生のメカニズムを、生体力学、運動生理学的視点から分析し、その評価、機能診断から理学療法、アスレティックリハビリテーションプログラムの実際について学ぶ。そのため、実際のスポーツ場面における姿勢・動作観察から障害の分析を行う。また、徒手的治療やテーピングからマネージメントまで、その理論と実際について修得する。	①スポーツ理学療法学の考え方を説明することができる ②代表的なスポーツ外傷の発生メカニズムや評価方法を説明することができる ③アスレティックリハビリテーションの流れを説明することができる ④アスレティックリハビリテーションで用いる具体的手法について説明することができる ⑤テーピングの理論を説明し、適切に実施することができる		1						●								○	◎	◎	◎	◎	◎	◎
			電気診断学	電気診断診断学的検査は、神経や筋の機能、病態を客観的に評価するために重要な手法である。誘発刺激によるF波・M波・H波や表面筋電図による動作分析、体性感覚誘発電位などについて学び、代表的症例を通してその診断での応用について理解する。	①理学療法における電気診断の理論を理解する ②表面筋電図の検査方法を理解する ③検査結果から診断のプロセスを学ぶ ④代表的疾患の診断とその応用について理解する		1						●								○	◎	◎	◎	◎	◎	◎
		9256	リハビリテーション関連機器	近年、科学技術の飛躍的な進歩を背景に、ハイテクを利用した治療用、訓練用ならびに機能補完等を目的としたリハビリテーション関連機器の開発がめざましい。こうした現状を踏まえ、本講義は温熱、光線、電気等による各種治療機器、訓練機器、義手・義足や自助具および車椅子等の機器類について解説し、それぞれの特徴や問題点ならびに今後の課題等について学ぶ。	①リハビリテーションにおける福祉用具等の開発の歴史的背景等について要点の説明ができる ②福祉用具の役割と重要性について要点の説明ができる ③国際生活機能分類（ICF)における福祉用具開発の意義とその役割ついて要点の説明ができる ④国際規格と国内規格の関係を説明できる ⑤介護保険制度における福祉用具の位置付けやその取り扱い方法等について要点の説明ができる ⑥補装具・共用品等の種類やその役割等について要点の説明ができる ⑦車いすや義肢装具等のリハビリ関連機器の種類とその役割等について要点の説明ができる		1						●								○	◎	◎	◎	◎	◎	◎

		科目コード	科目名	授業科目の概要	到達目標	単位数			開講時期（●）								専攻の学習成果（◎＝学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目．○＝学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目．△＝学習成果を上げるために履修することが求められる科目）											
									1年		2年		3年		4年		医療専門職ならびにチーム医療の一員としてふさわしい倫理観と幅広い教養とコミュニケーション能力を身につけている。			専門領域ならびに関連した領域の課題を解決するために必要な情報を収集して適切に活用する能力や判断力を有している。			医療人として必要な基本的な知識を身につけている。			理学療法学の専門的な知識および技術を修得し、それらを実践する能力を有している。		
						必修	選択	自由	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	倫理観	幅広い教養	コミュニケーション能力	情報活用能力	問題解決能力	専門職間連携能力	リハビリテーション理念	人体構造・機能と発達	疾患と障害	理学療法専門知識	理学療法技術	臨床実践能力
専門分野	理学療法治療学	9253	発達障害理学療法学	「療育」についての理解を深め、発達障害を持つ本人・家族の支援を中心に地域療育についての概要や代表的な発達障害に対する理学療法の進め方について学修する。また、ライフステージにおける特徴と必要な関わりについて援助できるよう基礎的な知識技術を学修する。さらに、正常発達に基づき次の発達段階に必要な運動要素について理解を深め、運動機能障害に対する基礎的な援助方法を学ぶ。	①「療育」の概念と障害児・者の各ライフステージについてどのような支援が必要になるか説明できる ②障害児・者の二次障害についての概要とその予防について説明できる ③代表的な疾患の病態を説明できる ④各疾患に対する評価と、結果の解釈について説明できる ⑤評価結果から適切な目標設定を作成できる	2							●				○					○	◎	◎	◎	◎	◎
		9254	発達障害理学療法学実習	発達障害の理学療法について、代表的な疾患に対する評価から治療までの流れを理解し、評価および治療手技が健常学生をモデルに実践ができることを目標とする。そのため、新生児期から成人期まで長期に渡り医療福祉教育の関わりが必要となることから、現時点での問題点のみならず将来的問題に対する知識を修得する。障害を持つ対象者の発達・成長の過程で生じる様々な症状や日常生活上の諸問題に対し、展開すべき理学療法について事例を通して実習する。	①各疾患の病態を説明できる ②各疾患に則した評価項目が立案できる ③立案した評価を適切に行うことができる ④評価結果を考察し、問題点を抽出できる ⑤治療プログラムの立案ができる	1							●				○		○	○	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	地域理学療法学		予防理学療法学	地域で予防理学療法を展開するうえで、理学療法士に必要とされる役割や考え方、実践方法およびその基礎になっている思想について学ぶ。その具体的な手段や地域での活動方法並びに医療･福祉施設での理学療法との違いについても学修する。さらに歴史的背景や現在の状況について理解し、予防リハビリテーションについて理解を深める。	①超高齢化社会における介護予防が必要な理由を理解する ②介護予防の基本的な考え方を説明できる ③高齢者や障がい者の自立支援について理解する ④運動器障害の再発予防における理学療法士の役割を説明できる ⑤健康増進やヘルスプロモーションの考えを理解する	2							●				○			○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
			地域ケアシステム論	地域で生活することの意義や解決していかなければならない問題について、理学療法的視点のみならず考慮すべき関連法規や関連機関、社会資源の活用について広く学ぶ。その上で、地域における多職種連携についても理解する。さらにバリヤフリーやユニバーサルデザインなど、福祉用具の制度やその機能についても学び、個別に必要とされる住環境についても、評価及びその改修方法について学修する。	①日本における高齢化の進行と医療保険・介護保険の現状を理解する ②地域で生活する高齢者や障がい者の特徴を理解する ③地域における理学療法士の役割について理解する ④地域で生活する高齢者や障がい者の住まいの特徴や問題点について理解する ⑤福祉用具の機能とその利用方法について説明できる	2								●			○			○	○	◎	◎	○	◎	◎	○	◎
			専門職間連携論	保健医療福祉サービスを提供する上で重要な関連職種間の連携・協働の在り方について学ぶ。そのため、各職種の役割・機能を理解し、専門性を活かしながら連携し協働する方法について考える。また、演習を通してチームアプローチの実際について学修する。	①高齢者や障がい者がもつ多様なニーズについて理解する ②保健医療福祉サービスに関係する職種の役割や機能について理解する ③専門性を生かしたチームの作成と連携方法について理解する ④チームのなかで、自らの役割と課題を理解する	2							●				○			○	○	◎	◎	○	◎	◎	○	◎
			アダプテッドスポーツ	スポーツのルールや用具を障がいの種類や程度に適合(adapt)させることによって、障がいのある人はもちろんのこと、幼児から高齢者、体力の低い人であってもできるアダプテッドスポーツについて理解する。そのため、その歴史と世界における活動状況、各種競技の実施状況について学修する。	①アダプテッドスポーツの概要について理解する ②アダプテッドスポーツの歴史を理解する ③アダプテッドスポーツの種目と競技の実施状況を理解する ④世界におけるアダプテッドスポーツの活動状況を理解する ⑤高齢者や障がいのある人にとってのスポーツの効果を理解する		2						●				○					○	○	○	◎			
		9265	レクリエーションワーク論	レクリエーションとは何かをテーマとし、レクリエーションの基本的理解とレクリエーション活動の社会的意義について学ぶ。レクリエーション運動の歴史について解説するとともに、その展開と方法、及び目標と理念について理解する。また、レクリエーション組織について、その育成と運営、役割、経営、そしてレクリエーションサービスについて、その企画・実施・評価について解説する。	①レクリエーションの意義を理解し、自らの学生生活に活かすことができる ②日常生活のレクリエーション化のつとめる ③地域生活の活性化支援のプログラムを計画する		2		●									◎	◎			○	○	○	○			
		9266	レクリエーションワーク	様々なレクリエーションの領域を学習し、その実践援助能力を習得することを目標とする。具体的には、コミュニケーションワーク、アイスブレーキングの技法、ホスピタリティ・トレーニング、ニュースポーツ、ネイチャーエクスプロアリング、音楽を利用したプログラム、福祉分野のプログラム、野外活動分野のプログラム、創作プログラムについて取り上げ、実際に体験させ、実践援助能力を習得する。	①身近な素材を利用して、豊かな生活を楽しむことができる ②様々な対象者への支援ができる技術を身につける ③総合的な健康生活支援の展開ができる		2			●								◎	◎			○	○	○	○			
	臨床実習		理学療法臨床見学実習	臨床実習施設で行われている理学療法およびその関連分野を見学、体験し理学療法士の役割と理学療法の方法や適応範囲を理解するとともに接遇、コミュニケーションのあり方を考え、専門職に求められる資質と態度を理解する。利用者の持つ障害の多様性、個別性を理解して、実習以降の専門教育の動機付けを行う。	①理学療法士の役割と責任について理解する ②理学療法業務の流れと役割を理解する ③理学療法対象者を理解する ④臨床実習を通して、学内での学習意欲を高める ⑤理学療法士としての基本的態度・資質を養う	1					●						○		○	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
			理学療法臨床検査測定実習	臨床実習指導者の指導下で、検査測定手技をクラークシップ形式で幅広く体験し、理学療法士に求められる検査・測定に関する知識、技術を学習する。あわせて、測定するために必要となる移乗、移動動作や、検査測定の結果を活用していくプロセスを見学、体験する。	①実習中に指導者のもとで、患者・利用者、関連職員と良好な関係を持つことができる ②専門職を目指すものとしての資質・態度を育て、適時、報告。連絡・相談を行うことができる ③臨床指導者の支持に従って、検査・測定を実施できる ④検査・測定の結果を記録しし報告できる ⑤臨床実習の前に基本的知識と技術をまとめることができる	3								●			○		○	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
			理学療法臨床評価実習	理学療法の基本的なプログラム作成過程を習得するために臨床実習指導者の指導下で理学療法評価の過程を体験する。各種の理学療法を幅広く体験し、理学療法士に求められる知識、技術を習得する。また、専門職として理学療法士に求められる技能を学修する。	①対象者に対応した評価項目をあげ実施できる ②実施した評価から問題点を抽出できる ③収集した情報や実施した評価より適切な理学療法目標を設定できる ④実習指導者の指導のもと対象者に適応した理学療法プログラムを作成できる ⑤情報収集や理学療法評価に必要なコミュニケーションを習得する	6									●		○		○	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
			理学療法臨床総合実習	基礎的な理学療法を実施するため、臨床の場で理学療法課程を実際に体験する。臨床実習指導者の指導により理学療法を幅広く体験し、理学療法士に求められる知識、技術の適応方法を学習する。併せて適時、理学療法の内容を振り返り、理学療法に修正を加える手順について学修する。	①対象者に適切な情報収集と理学療法評価を行うことができる ②臨床実習指導者の指導のもと対象者の理学療法プログラムを作成し実施できる ③対象者の状態を指導者に適切に報告できる ④チーム医療の一員としての理学療法士の役割を理解できる ⑤対象者の経過や変化を適切に記録できる	6										●	○		○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

		科目コード	科目名	授業科目の概要	到達目標	単位数			開講時期（●）								専攻の学習成果（◎＝学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目．○＝学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目．△＝学習成果を上げるために履修することが求められる科目）											
									1年		2年		3年		4年		医療専門職ならびにチーム医療の一員としてふさわしい倫理観と幅広い教養とコミュニケーション能力を身につけている。			専門領域ならびに関連した領域の課題を解決するために必要な情報を収集して適切に活用する能力や判断力を有している。			医療人として必要な基本的な知識を身につけている。			理学療法学の専門的な知識および技術を修得し、それらを実践する能力を有している。		
						必修	選択	自由	春	秋	春	秋	春	秋	春	秋	倫理観	幅広い教養	コミュニケーション能力	情報活用能力	問題解決能力	専門職間連携能力	リハビリテーション理念	人体構造・機能と発達	疾患と障害	理学療法専門知識	理学療法技術	臨床実践能力
専門分野	臨床実習		理学療法臨床専門実習	基本的な理学療法を学んだ後、より専門的な理学療法を展開するため、臨床の場で専門的な理学療法を実際に体験する。臨床実習指導者の指導により評価法や治療技術をを幅広く体験し、理学療法士に求められる知識、技術の適応方法を学修する。	①専門的な理学療法の実施に必要な知識を習得する ②理学療法実施場面を体験し実施法を理解する ③専門的理学療法の位置づけを理解し説明できる ④理学療法における専門性の意義を理解する	2										●	○		○	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	理学療法研究・演習		理学療法研究	理学療法、リハビリテーションおよびその関連分野に関わる問題解決に必要な科学研究の概要を学ぶと共に、各種研究分野のトピックスを学修する。また、科学研究を実施する際の必要な研究倫理について、関係する各種ガイドラインを学修する。	① 理学療法、リハビリテーションおよびその関連分野に関わる問題とその問題解決に必要な科学研究の手法を説明できる ② 科学研究を実施する際に必要な研究倫理を説明し、遵守できる	1							●							◎	◎		○	○	○	◎	◎	◎
			理学療法研究Ⅰ	理学療法研究Ⅰ･Ⅱは、一連の研究科目である。理学療法研究Ⅰでは、その第一段階として、理学療法諸領域における課題を探求し、文献検索による情報収集、適切な手法の選択・設定などの過程を通して、問題解決に向けた思考過程とその手法を学修する。	①理学療法諸領域における課題を探求し、設定できる ②文献検索による情報収集、適切な手法の選択・設定などの過程を通して、設定した問題解決に向けた適切な手法を設定できる		1						●							◎	◎		○	○	○	◎	◎	◎
			理学療法研究Ⅱ	理学療法研究Ⅰ･Ⅱは、一連の研究科目である。理学療法研究Ⅱでは、理学療法研究Ⅰに引き続き、理学療法諸領域における課題解決のための研究の実践、結果の考察、まとめなどの過程を通して、問題解決に向けた思考過程とその手法を学修する。	①理学療法諸領域における課題解決のための研究を実施することができる ②理学療法諸領域における問題を解決するための方策について説明できる		1						●							◎	◎		○	○	○	◎	◎	◎
			理学療法演習Ⅰ	理学療法演習Ⅰ･Ⅱは、一連の演習科目である。理学療法演習Ⅰでは、その第一段階として、理学療法の諸領域の活動調査ならびに文献検索を行って情報収集などを通して、理学療法士の役割、活動内容、必要とされる基礎的知識と技術を学修する。	①理学療法の諸領域の活動調査ならびに文献検索などを行って情報収集することができる ②収集した情報を基に、理学療法士の役割、活動内容、必要とされる基礎的知識と技術を説明できる		1							●						◎	◎		○	○	○	◎	◎	◎
			理学療法演習Ⅱ	理学療法演習Ⅰに引き続き、理学療法諸領域における活動調査や体験を通して、理学療法士の役割、活動内容、必要とされる基礎的知識と技術を整理し、まとめる。それら一連の演習を経て、問題解決に向けた思考過程とその手法を学修する。	①理学療法諸領域における活動調査や体験を通して、理学療法士の役割、活動内容、必要とされる基礎的知識と技術を整理し、まとめることができる ②理学療法諸領域における問題を解決するための方策について説明できる		1							●						◎	◎		○	○	○	◎	◎	◎
			理学療法セミナーⅠ	１年次より学んできた基礎医学、臨床医学、基礎理学療法学の知識について、グループ学習を中心とした作業を繰返し行いながら自己学習力を高め、各領域毎に系統立てられた模擬試験を通して、総合的な理学療法学の基礎を修得する。	①基礎医学、臨床医学についての知識を整理する ②基礎理学療法に関する知識を整理する ③グループ毎に各領域の資料を作成する			1					●									◎	◎	◎	◎	◎	◎
			理学療法セミナーⅡ	理学療法専門科目の知識について、グループ学習とアクティブラーニングを中心とした活動を通して、各領域毎に系統立てられた模擬試験にて知識を確認しながら、総合的な理学療法専門知識を学修する。	①理学療法専門科目の知識を整理する ②理学療法技術の実践練習を繰り返す ③グループ毎に各領域の資料を作成する			1					●									◎	◎	◎	◎	◎	◎
		9284	理学療法総合演習Ⅰ	理学療法学臨床総合実習、理学療法臨床専門実習を前にして、保健、医療、福祉の各領域で求められる質の高い理学療法技術と知識を総合的に修得する。そのため、解剖学、生理学から基礎医学、理学療法専門分野を再学習し知識の整理を行う。また 、臨床実習で求められる必要最小限の態度・知識・技術について客観的臨床能力試験（OSCE）と国試形式の試験を通して学修する。	①理学療法の基礎となる専門基礎科目および臨床医学について知識の整理ができる ②理学療法専門科目について知識の整理ができる ③理学療法士としての資質を理解し、態度・マナーを身につける ④理学療法の基礎的な評価と治療を説明できる ⑤模擬患者に対して基礎的な理学療法評価と治療を実施できる	1									●									◎	◎	◎	◎	◎	◎
		9285	理学療法総合演習Ⅱ	臨床実習の経験をもとにして、臨床で求められる知識と技術を整理する。この作業を通して、臨床の場で求められる基本的な理学療法を展開するための確実な知識と実践可能な技術を身につける。そのため、解剖学、生理学から基礎医学、理学療法の各専門分野を再学習し、臨床における理学療法の実践に生かせるよう学修する。	①臨床施設における理学療法士の役割と医療スタッフや他施設との連携について説明できる ②臨床実習により学んだ知識と技術について説明ができる ③各種疾患に対する理学療法実践のための基礎知識について整理できる ④理学療法の対象となる各種疾患に対する評価と治療を整理できる ⑤総合的に理学療法士に求められる知識と技術を整理できる	1									●			○	○	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎